

徳島・徳島惣構跡

とくしまそうがまえ

- 1 所在地 徳島市徳島町二丁目
- 2 調査期間 二〇〇五年(平17)二月～五月
- 3 発掘機関 徳島市教育委員会
- 4 調査担当者 勝浦康守
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡の年代 一六世紀後半～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(徳島)

徳島惣構跡は、旧吉野川下流域の河成堆積により形成された島状の低位沖積地を基盤に普請した城下町跡「徳島」を指す。調査地は

安政年間(一八五四～一八六〇)に描かれた「御山下島分絵図・徳島」により、徳島藩の中老をつとめた稲田勘解由(二〇一六石六斗)の、淡路街道沿いの屋敷跡の一面に位置することがわかる。初代稲田勘解由至政は稲田貞祐の次男吉勝の子であり、

徳島藩家老稲田植元は叔父にあたる。

調査の結果、掘立柱建物・土坑・井戸・石室・貝塚などの遺構を確認した。木簡は井戸SE三七から八点出土した。籜が遺存することからみて、桶積み上げの井戸側と考えられるが、桶材は残存しない。出土遺物には、肥前系陶器・皿、土師質皿などの土器、漆器・蓋・箸・曲物・櫛・下駄・こまなどの木製品があり、一七世紀中葉の井戸と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

- (1) □郎へ之□書也
(80)×23×3 019
- (2) ・「くせつめ甚太夫
・「く大麦五斗入
(137)×20×3 033
- (3) ・「^{彦カ}く右衛門
・「くい□□
(75)×26×4 039
- (4) ・「くせつめ甚□
・「く大麦五斗入
(72)×16×2 039
- (5) ・「く大つ五斗入 初□^{衛カ}門
(157)×23×6 033

(6) ・「く土」□

・「く米五 (65)×25×2 039

(7) ・「く 源六

・「く小麦二斗五升三合 (106)×19×3 033

(8) 「く大つ五斗入 (102)×18×3 039

すべて荷札木簡である。受取人と考えられる稲田の名前は見られないが、(2)(4)は稲田家の所領である「せつめ」(現山川町瀬詰)から荷が送られていることを示すものである。送り荷には年貢として課せられた「米」「大麦」「小麦」「大つ」「大豆」があり、阿波国における地方知行を裏付ける。(2)(4)は米・大麦・小麦・大豆が五斗(明治初期まで一俵≒七五kg)で納入されていることを示している。荷札木簡では米五斗の記載は一般的であり、麦や大豆などの畠や二毛田の収穫物も米と同様の五斗で扱われる。(7)の「小麦二斗五升三合」の納入量は変則的であるが、これは米の代わりに内麦として納められたもので、米年貢と米以外の雑穀納入の比率を示す一例と考えられる。

なお、木簡の釈読については、徳島市立徳島城博物館の根津寿夫氏にご教示いただいた。

(勝浦康守)

